

令和6(2024)年度栃木県イノシシ管理計画モニタリング結果報告書(概要版)

1 総合評価

捕獲数は9,928頭であり、管理計画に掲げた年間の捕獲目標4,600頭の約2.2倍であった。

一方で、分布・被害地域は拡大傾向にあり、農作物の被害金額も平成27年度のピーク時からは低い水準を維持しているものの、特に県南西地域では大きく増加していることから、地域ぐるみの総合的な被害対策をより一層促進していく必要がある。

2 調査の結果

(1) 捕獲数と捕獲の分布

- 捕獲数は、栃木県イノシシ管理計画(五期計画(R6～R11))に掲げた令和6年度の捕獲目標4,600頭に対して、9,928頭であり、捕獲目標を2倍以上上回っていた。また、捕獲数及び捕獲効率とともに、豚熱の影響等により令和3年度に大きく減少した後、増加傾向が続いていることから、地域ぐるみの総合的な被害対策をより一層促進していく必要がある。
- 捕獲数50頭以上の区画は、県南西地域の南部に多く分布しており、また、県東地域においては、南部の方が比較的捕獲が多い傾向であった。
- 5年ごとの捕獲分布を比較すると、県南西地域の南部や県東地域の南部で捕獲の多い区域が出現するとともに、県央部の平野部を除き捕獲されるようになっており、分布域が拡大していた。

(2) 被害の発生状況とその対策

- 農作物の被害金額は、令和3年度に大きく減少したが、令和6年度は125百万円と、ピーク時(平成27年度)からは低い水準を維持しているものの、令和3年度以降、再び増加傾向にあり、令和2年以前と同程度の値となった。
- 地域別に見ると県東地域では微増、県北地域では横ばいとなっている一方、県南西地域(特に南部)では増加していた。
- 被害対策としては、各市町における侵入防止柵の設置や里山林整備、専門家である鳥獣管理士派遣による集落単位での被害対策への支援等を行っており、被害が減少した地域はこれらの対策が功を奏したものと考えられる。
- 被害が増加している地域もあることから、鳥獣被害対策実施隊設置の働きかけや、捕獲だけではない各種事業を活用した地域ぐるみの総合的な被害対策をより一層、普及・促進していく必要がある。

